

地域公共交通に係る住民意見交換会 会議録（要旨）

北部公民館

開催日・出席者等

開催日時 令和3年12月22日（水） 18時30分から20時まで

場 所 北部公民館 2階 大広間

出席者 町民12名

町 増田副町長、小林総務課長、望月企画係長、新井主任

(株)地域総合計画 宮沢取締役課長、徳竹主任

意見交換内容

1 開会 ……小林総務課長

2 あいさつ

増田副町長よりあいさつ

○ 町出席者自己紹介 総務課→(株)地域総合計画

3 報告事項

○（仮称）中野市・山ノ内町地域公共交通計画について
事務局より、交通計画の目的について説明

○乗り込み調査・住民アンケートの結果の概要について
(株)地域総合計画 徳竹主任より、資料に基づいて説明

4 意見交換

○町としては公共交通を継続していくつもりなのか。

→町回答. 現時点では継続していくつもりである。

○このような場合は、楽ちんバス利用者の方が参加しやすい時間を設定したほうが良いと思う。

→町回答. 1月に協議会が開催予定のため、速やかにアンケート結果の報告も兼ねて本日の開催になったことはご理解願いたい。開催の時間については、夜の時間帯よりもお昼の時間帯の方がよいということか。

→住民. そうである。

○中野市との相互乗り入れについて、山ノ内町でも各地区によって意見が異なるため、地区を考慮した設問にして欲しかった。

→町回答. この設問の地区別の回答率として、北部地区の方からの回答が約39%であるため、他地区よりも多くの回答をいただいていること、また、北部地区の回答のみに着目する

と、約44%の方が、現状で満足、約56%の方が、相互乗り入れをして欲しい区間があるとの回答をいただいている。

○乗り込み調査を実施してはどうか。

→町回答. 5月に実施している。その中では現状維持の要望が多かった。

○北部地区からは、乗り入れの要望が多いと思うが、県内で市町村をまたいで運行されている公共交通の実情を教えてください。

→町回答. 市町村をまたぐ運行の話では、木曾などで、広域で負担金を出し合い運行するような話を聞いている。

○協議会の公募委員の状況を教えてください。

→町回答. 中野市・山ノ内町で4名の応募があり、山ノ内町から1名、中野市から2名を採用予定である。

→住民. 山ノ内からの相互乗り入れの意見が中野市よりも多いので、山ノ内町の公募委員を増やした方がよいのではないか。

→町回答. 中野市は市域が広いし、選考により、中野市から2名としている。また、今回の協議会は、楽ちんバスの相互乗り入れのためだけのものではなく、地域全体の公共交通についての協議会であるため、先ほど説明した人数となっている。

○町の公共交通会議はなくなると聞いたが、町の公共交通はどこが検討するのか。

→町回答. 町の公共交通会議は組織されなくなるかもしれないが、新しい協議会の規約の中に分科会を定めている。この分科会は、中野市、山ノ内町のそれぞれの地域の公共交通を検討するためのもので、委員の構成は、山ノ内町に関する協議会委員のほか、公共交通会議の委員、山ノ内町の公共交通利用者などを想定している。

→住民. 規約をお示しいただきたい。

→町回答. 第1回協議会にて示す予定である。

○山ノ内町単独で、中野市へ乗り入れる路線を作ることは可能なのか。

→町回答. 夜間瀬橋を経由することは、長電バス、長野電鉄と競合するため、難しい。このため、別のルートを経由し、乗り入れる方法が考えられるが、ルートは競合しないが、山ノ内町と中野市を結ぶ公共交通を町で行えば、長電バス路線の廃止が大いに懸念される。また、費用についても、もう1台、楽ちんバスが必要となるし、運行経費も今よりも増大する。中野市からも山ノ内町へ乗り入れしたいという要望があれば、相互に費用負担し、運行することを望めたが、今回のアンケート結果からはそのような状況ではない。このことから、乗り入れは難しい。

○城下診療所は楽ちんバスの運行ルートから外れており、楽ちんバスを回すことや、別の交通手段を設けることはできないか。

→町回答. 楽ちんバスでは軽油することが難しいとの検討以上のことはしていない。

→住民. 城下医院から診療所まで、先生を送迎している町の車両に利用者を乗車させることはできないか。

→町回答. それは無償でか。

→住民. 無償である。

→町回答. 庁内の他部署にも情報共有は行う。

※意見交換会終了後、参加住民より、地域住民が自ら無償で診療所まで送迎が必要な方を輸送することはできるのか。運転できる人はいる。との話を伺ったため、実例や情報提供を行った。

5 閉会・・・総務課長

文化センター

開催日・出席者等

開催日時 令和3年12月24日(金) 18時30分から20時まで

場 所 山ノ内町文化センター 3階 ホール

出席者 町民9名

町 増田副町長、小林総務課長、望月企画係長、新井主任
(株)地域総合計画 宮沢取締役課長、徳竹主任

意見交換内容

1 開会・・・小林総務課長

2 あいさつ

増田副町長よりあいさつ

○ 町出席者自己紹介 総務課→(株)地域総合計画

3 報告事項

○(仮称)中野市・山ノ内町地域公共交通計画について
総務課 事務局より、交通計画の目的について説明

○乗り込み調査・住民アンケートの結果の概要について
(株)地域総合計画 徳竹主任より、資料に基づいて説明

4 意見交換

○アンケート結果より、相互乗り入れについて、中野市からの要望が少ないが、両市町で同じ思いでないと感じる。相互乗り入れは、町として見込みはあるのか。

→町回答. アンケート結果を踏まえると、今回策定を予定している公共交通計画の中で、楽ちんバスの相互乗り入れを実現するような検討を行うのは難しい。

○AI を活用した交通について、山ノ内町での展開や、何か情報などはあるか。

→町回答．観光に関わる DX 関連の会議で、AI を活用したデマンド交通の話があったが、需要が少ない地域での活用は難しいとの印象を受けた。

→住民．月額制乗り放題のサービスなど、AI を活用した交通についても研究していただきたい。

→町回答．承った。

○楽ちんバスのダイヤは変更可能なのか。

→町回答．可能である。

→住民．楽ちんバスは過密ダイヤのためか、運行速度も速いような気がする。利用が少ない時間帯などは便を減らすなどして、余裕のあるダイヤを検討しても良いと思う。

→町回答．検討する。

○山ノ内町からの主な目的地は、イオンや北信病院だと思うので、これらの施設が町へ送迎に来てもらえるような働きはできないか。

→町回答．検討をしたことがなかった。現時点では、町から働きかけるのは難しい。

○中野市の路線バスは北信病院の玄関口まで乗り入れているのが、山ノ内町民としてはうらやましく思う。上林線、菅線では信州中野駅から歩く必要がある。

○中野市が運営しているバスは中野市民以外も利用できるのか。計画を両市町で作成すれば、居住地以外のバスも利用できるようになるのか。

→町回答．現時点で、中野市のバスは市民以外も利用できる。楽ちんバスを町民限定にしているのは、検討課題と考えているが、大きい車両ではない為、観光客の利用が多い場合、地域住民を乗車させることができなくなる事態を避けるために町民限定としている。

○山ノ内町と中野市で一緒に計画を検討する意味はあるのか。

→町回答．長電バスの路線維持を計画に位置付けることで、100%の保証ではないが、計画期間中は運行継続を担保できる。全国的に路線バス廃止や、本数減少が加速しているなか、残された路線を維持していくというのが、一番重要なことであると考えている。

○アンケート結果から、相互乗り入れについて、約70%の方が現在の路線で満足と読めるが、町としてはどう感じているか。

→町回答．現在の交通体系でご理解いただけていると感じている。

→住民．その判断でよいのか。

→町回答．アンケートについては、無回答の方も多くいたが、回答いただいた方のなかでは、そのように判断できる。

○楽ちんバスを町民以外にも利用できるように研究していただきたい。

→町回答．道路運送法からすれば、町民以外にも利用可能であるが、過去に何回か、町民限定

の中でも、定員に達してしまい、そのほかの町民が乗ることができなかったことがあった。しかし、検討課題ではあると認識している。

5 閉会・・・総務課長